

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	満江 菜穂子
主な担当科目	ピリオド演奏研究Ⅰ,ピリオド演奏研究Ⅱ,演奏とからだⅡ,音楽教養演習Ⅰ,音楽教養表現Ⅰ,音楽文化研究Ⅳ,楽器研究,基礎ゼミ,室内楽Ⅰ/Ⅰ①②/Ⅱ/Ⅱ①②/ⅢⅣⅤⅥ/室内楽演習ⅠⅡ_木管L,副科グループレッスン_クラリネットA,副科グループレッスン_クラリネットC,副科グループレッスン_クラリネットD,器楽
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	実技レッスンにおいては、これまでの演奏活動で経験してきたこと、研究で得てきた知識をもとに、学生らが音楽の学修ならびに演奏にそれらを取り入れ、それぞれが前向きにスキルアップできるよう尽力したい。楽器研究やピリオド演奏研究をはじめ、様々な学科目講義においては、幅広い分野の学生らに理解を促すために、内容を吟味したい。
2024年の教育に関する自己評価	実技レッスンは、コミュニケーションが良好で良い信頼関係を築くことができ、おおいに成長を感じた学生もいた反面で、もともと持っているモチベーションの問題や体調等の問題を抱えた学生もあり、担当学生の中には出席や遅刻等で単位を修得できなかった学生も発生したことは残念であった。学科目について、特に大学院のピリオド演奏研究は、想定を超え、また以前より増して、学生の意欲、授業を受ける姿勢にばらつきがあったように感じたが、意欲的な学生には、手ごたえを感じた。
2024年のFD活動に関する自己評価	4月には大学院のFD研修会に参加し、大学院修士課程および博士課程の教育内容や学生の状況、入試のシステム等を知ることができた。また、9月のFD合同研修会では分科会グループでファシリテーターを担当した。音楽教養分科会ならびに弦管打楽器部会のFDでも他の先生方との意見交換を行い、有意義なFD活動ができた。
授業改善のために取り入れた研修内容	FD研修会で特に印象に残っているのは、全体研修会での講話「教職員と学生がハッピーに学び合うためのコミュニケーションの技術」と、それに続いて行われたFD分科会である。講話で提示されたテーマ「学生が年老いたときどんな先生だったと思われたいか」という、私にとっては考えたことのなかったテーマを皆で考え共有し、どの先生方もそれぞれの方法で熱心に学生との信頼関係構築に取り組んでいることを知った。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1749 教員名:満江 菜穂子

1) アンケート結果に対する所見

「器楽」のアンケートで、総合的満足度が 100 パーセントであったことは大変嬉しい。自由記述でも、「実技レッスンに加えてプロフェッショナルとしての姿勢も見せてくださり学びがたくさんありました。」などという、教員冥利に尽きる言葉も並んでおり、指導側の私こそ、学生に恵まれたと感じている。

2) 要望への対応・改善方策

特に要望は見られなかったが、アンケートに答えていない学生もいるため、今後も良くコミュニケーションを取りながら教育に携わろうと思う。

3) 今後の課題

今後は、より多様な学生が入学してくることが考えられる。専門知識のみならず、社会の状況等にも目を向け、個々の特性をよく把握しながら丁寧に学生たちと接していく所存である。

以 上